

事例5

< 事例概要 >

① 50 歳代、腰椎椎間板ヘルニア、腰部脊柱管狭窄症に対する固定術後。術後2 日目に発熱、血圧・意識レベルの低下があり、出血性ショック疑いの入院患者。

② 原因検索目的の検査。

③ 通常は外部へ委託し検査をしていたが、至急のため院内の検査機器を使用し検査を行った。パニック値を医師へ報告するルールがなかったため、臨床検査技師は、検査結果を取りに来た看護師に「値が低いです」と $WBC\ 14 \times 10^2/\mu L$ と表示された検査結果の用紙を手渡した。院内検査機器の桁表示は $(\times 10^2)$ のため $WBC\ 1,400/\mu L$ であった。しかし、通常の外部委託検査の結果の桁表示は $(\times 10^3)$ であったため、看護師は医師へ「 $WBC\ 14,000$ 」と報告した。その後、患者は消化管穿孔疑いで他院へ救急搬送された。

④ 搬送翌日（パニック値検出翌日）に死亡。

⑤ 死因は、手術時の腸管損傷による壊死性筋膜炎。死亡時画像診断（Ai）無、解剖有。